

長州軍・幕府軍の武器・軍事力・被害の比較

人数	長州軍	人数：約 1,400 人	幕府軍	人数：約 2,800 人
軍艦	 <p>丙寅丸 (へいいんまる) 蒸気内車、鉄製 94t 長さ 40m・幅 5.4m</p>	 <p>富士山丸 (ふじやままる) 蒸気内車、1000t 長さ 68m・砲 8 門</p>		
使用銃	 <p>ミニエー銃 火縄銃 ゲベール銃</p> <p>ゲベール銃は両軍とも使用</p> <p>ミニエー銃の弾丸は、先端の尖った長円筒形で弾道は一定していた。ゲベール銃の有効射程距離がおおよそ100mに対しミニエー銃はその3倍のおおよそ300mあり、両軍が遭遇した場合、ミニエー銃使用の長州軍が射撃を開始しても、ほとんどがゲベール銃使用の幕府軍は、有効射程距離に近づくまでの200mは無抵抗であり、その差は歴然としている。</p>			
被害	<p>戦死者：12名、負傷者：38名 焼失家屋：久賀(1001軒) 安下庄(628軒)</p>		<p>戦死者：20名、負傷者：38名</p>	

「四境の役大島口の戦い」主な人物



**僧月性** (にちげつしょう) 尊王攘夷・海防論を唱え諸国を遊説。妙円寺境内に私塾「清狂草堂(時習館)」を開設。遠近より入塾する者が集まり、明治維新の原動力となる多くの門下生を送り出す。すぐれた詩人で多くの傑作があり、「男兒立志の詩が有名である」。

**高杉晋作** (たかすぎしんさく) 文久三年、下関で奇兵隊を立ち上げる。大島口の戦いでは海軍総督として丙寅丸に乗り込み、前島沖に停泊する幕府艦隊を夜襲。第二奇兵隊と連携して周防大島を奪還、戦いを勝利に導く。(写真 下関市立東行記念館蔵)

**榎崎剛十郎** (えのきこうじゅうろう) 第二奇兵隊書記兼参謀として活躍中、大島口開戦前に起こった第二奇兵隊の倉敷代官所襲撃事件を止めようとして、維新を待たず二十九歳を一期に斬殺された。明治三十五年、功績に対して従五位が贈られている。詩文を愛した文人型の武人であった。

**世良修蔵** (せらしゅうざう) 椋野出身で、第二奇兵隊軍監の一人として、大島奪還の作戦を指揮、勝利に導く。明治になり奥羽鎮撫総督参謀として出陣中、福島で捕えられて斬殺された。高杉晋作が上海から持ち帰ったピストルの一丁を贈ったという説もあり、晋作との親交が深かった。

**大洲鉄然** (おおずてつねん) 郡内に壮士を募り真武隊を結成。僧侶で護国団等も組織。四境の役では、法衣を脱いで陣頭指揮し、大島の苦戦の情報を山口政事堂に知らせた。明治になり、島地黙雷らと共に本山改革に努め、本願寺参政になり、そののち執行長に進んだ。久賀築港にも尽力した傑僧である。

四境の役 Q&A

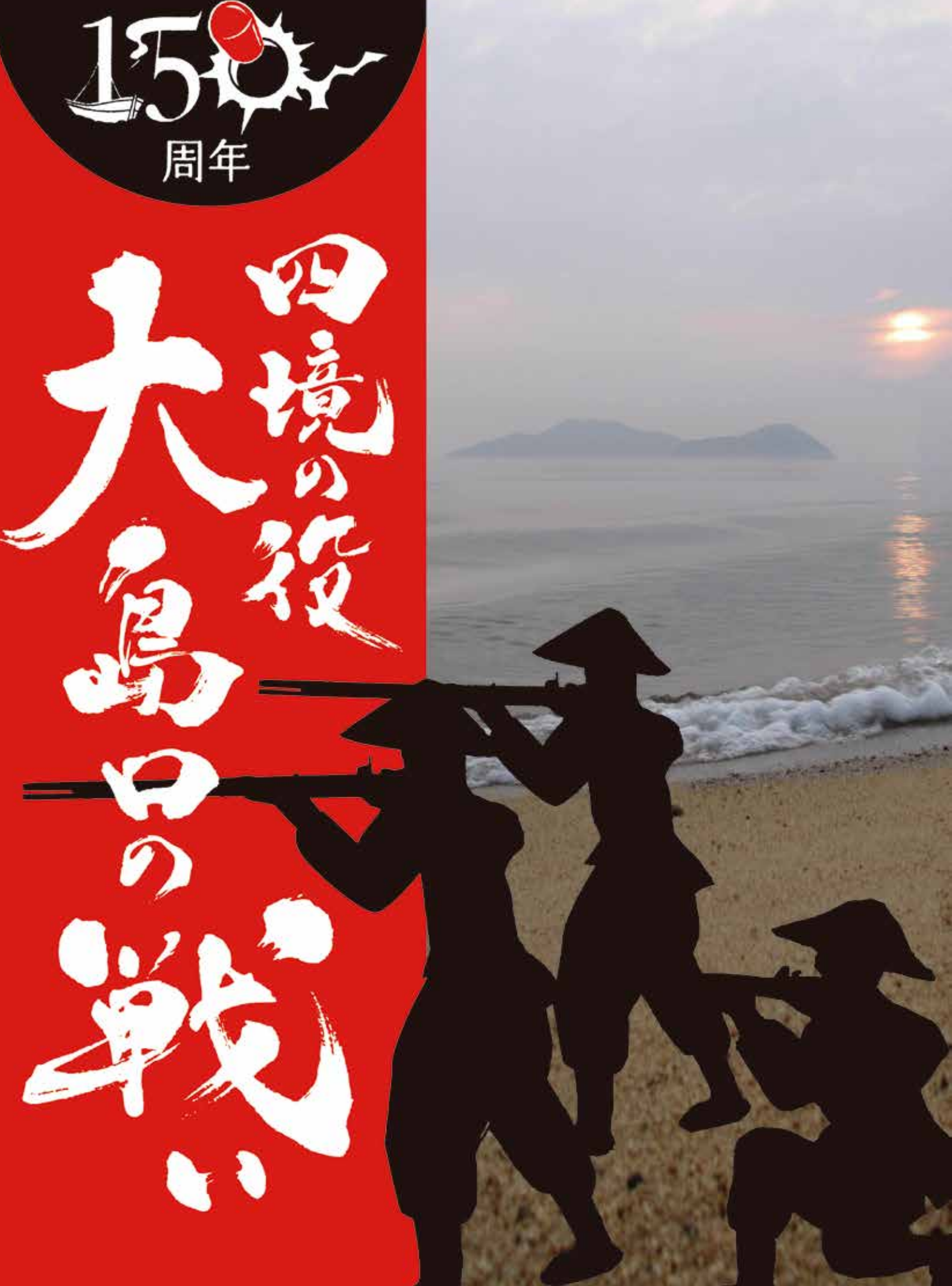
- Q, 幕府はなぜ大島を攻めたのですか?**  
**A:** 古来、敵を攻めるときは、まず近くの島を占領することが多くありました。このことから、広島城下の幕府直轄軍は、大島を足掛かりにして長州藩を攻撃する作戦(芸州口への挟撃など)を採用し、まず大島を攻撃したと推察されます。
- Q, 浄土真宗はなぜ戦いに参加したのですか?**  
**A:** 「外国の圧力に屈して国が減れば仏法も滅びる。僧も農商人も海防に参戦すべきだ。」と主張する真宗の僧月性の「護国論」を、西本願寺は採択し、印刷して各寺院に配布しました。諸隊に民衆を参戦させる藩の方針とも一致し、「護国論」の影響は大きかったと思われます。長州の僧の諸隊は約20あり、真宗だけでなく各宗派が参じています。大島の護国団は大洲鉄然の提言により、海防論などを学んだ月性門下生を含む大島郡内の各宗派からの約60名により結成されました。大島口の戦いが終わった後、その年の年末まで、護国団は安下庄の曹洞宗加水寺(現普門寺)を屯所としました。
- Q, 丙寅丸は、戦争にどのような影響を与えたのですか?**  
**A:** イ、芸州口初戦の勝利の知らせと合わせて大島に進軍する長州軍を鼓舞しました。ロ、海上からの奇襲という恐怖が、幕府軍と松山藩軍による南北挟み撃ち作戦を失敗に終わらせました。ハ、幕府軍に、薩摩藩や西洋勢力が加担しているのではと思わせました。
- Q, 松山藩軍と長州軍の戦術の違いはありましたか?**  
**A:** 兵数と軍艦は幕府側が圧倒的有利でしたが、第二奇兵隊参謀の世良修蔵は椋野の出身で、地の利を生かした高所に陣を取り(制高作戦)、さらに住民たちの協力や兵糧の提供もあり有利に戦えました。装備も松山藩軍は旧式で、戦国時代さながら旗を掲げ太鼓と法螺貝を打ち鳴らす一団進軍のため、高所から狙い撃ちされました。対して長州軍は、散兵戦術を用い、武器もミニエー銃などの西洋鉄砲を装備していました。
- Q, 長州藩は、戦費をどのようにして捻出したのでしょうか?**  
**A:** 藩費や献金が使われました。関ヶ原の敗戦により長州藩は財政難に苦しんでいましたが、2つの改革「宝暦の改革」「天保の改革」により藩政改革を実行しました。なかでも「四白政策」と呼ばれる産業振興による財源確保が挙げられます。長州藩の四白とは、米を除いた「塩」「紙」「綿」「蠶」であり、塩は三田尻や大島、綿は周防大島でも栽培され、紙や蠶は山間部が主産地で、多くは大坂に運ばれ藩の台所を潤しました。

**あとがき**

四境の役大島口の戦いリーフレット作成にあたり、熱意ある歴史家の方々や、貴重な資料や伝承などの情報提供に協力して頂きました多くの町民の皆さまに感謝申し上げます。150年前の歴史的な戦いは、年数の経過と共に、既に多くの古文書等が失われ、所在不明の状態を危惧しておりましたが、地元で伝わる多くの情報も集まり、改めて周防大島町民が「明治維新の原動力になったのだなー!」と感じ入っております。しかし、リーフレットの紙面には限度があり、内容の全てを皆さまに提供できないことが残念です。しかし、この企画(リーフレット)が更に活用され、町の活性化に役立てて頂ければ幸いです。

【協力機関】僧月性顕彰会、和木町歴史資料館  
 【参考文献等】「大島町誌」、「久賀町誌」、「橘町史」、「郷土会集録」(大島町郷土会)、「周防大島歴史物語」、「山口県史 史料編 幕末維新4」、三宅紹宣「幕長戦争」(吉川弘文館)、「傑僧大洲鉄然の生涯」、「榎崎剛十郎の手紙とその生涯」、DVD「四境の役大島口の戦い」(中原勲作成)  
 【挿絵】小柳博明 【写真】コバヤシスタジオ 【デザインアドバイザー】柳川研一  
 【監修】田口由香(大島商船高等専門学校准教授)

●発行責任者 四境の役150周年記念事業実行委員会 TEL:0820-78-2205  
 ●印刷所 (有)日良居タイムス TEL:0820-73-0649 FAX:0820-73-1649



「四境の役・大島口の戦い」とは

慶応二年(一八六六)六月七日(新暦七月十八日)、大島口において、長州藩と徳川幕府との戦いの幕が切つて落とされました。近年、この戦いは「幕長戦争」や「長州戦争」と呼ばれますが、長州藩の四つの境が戦場になったことから「四境の役」とも呼ばれています。

当初、幕府軍・松山藩軍の圧倒的な戦力により、久賀・安下庄のほとんどを戦火により焼失するなど苦戦し、大島現在の周防大島の防衛にあたる村上市諸隊・勘場隊・護国団(隊・大島郡兵・飯田隊・平岡隊等は、代官の判断で遠崎まで撤退し、大島は完全に占領されました。しかし、十三日未明、出陣命令を受けた高杉晋作が丙寅丸に乗り込み、幕府軍艦を奇襲したことで戦況が好転しました。十五日朝には、遠崎に集結した千人を超える長州軍が、笠佐島を経由して大島に上陸し、西蓮寺を総本陣として

反撃を開始しました。第二奇兵隊は、軍監の世良修蔵をはじめとして大島出身者が多く、この島の地を熟知した「制高作戦」や兵士が散らばって戦う「散兵戦術」を駆使して大島を奪還しました。戦力に劣る長州軍でしたが、幕府軍は寄せ集めの軍隊のためか統率が取れず、一部の兵が民百姓に略奪などの狼藉を働くことが起きました。

島の者達はこの蛮行に怒り、鬭争心をいやが上にも燃え上がらせ、武器を持たない農民は山頂から大石を転がすなどして応援しました。戦えない者は食料を提供や炊き出しに協力し、歓声(関の声)が、相手の戦意をくじいたことも忘れてはなりません。

大島口の戦いの勝利は、島民はもちろん藩民全体に自信を与え、芸州口(六月十四日開戦)、石州口(六月十六日開戦)、小倉口(六月十七日開戦)の戦いに弾みをつけ、長州藩の勝利を決定づけました。長州と幕府は、九月二日、宮島で休戦協定を結び、翌年には幕府が倒れて王政復古の大号令が出されました。四境の役は、武士政権を終わらせ、近代日本をスタートさせるきっかけになった戦いです。

西暦	和暦	旧暦日	主な出来事
一八五三	嘉永六年	六月 三日	ペリー 浦賀に来航
一八五四	安政元年	三月 三日	日米和親条約調印
一八五七	安政四年	十一月 五日	吉田松陰 松下村塾を主宰
一八五八	安政五年	六月 十九日	日米修好通商条約調印
一八五九	安政六年	十月 七日	安政の大獄始まる
一八六〇	万延元年	一月 十三日	吉田松陰 刑死
一八六二	文久二年	三月 三日	咸臨丸 太平洋横断出航
一八六三	文久三年	五月 十二日	榎田門外の変
一八六四	元治元年	八月 七日	長州フアイブ 英国密航留学
一八六五	慶応元年	六月 七日	生麦事件
一八六六	慶応二年	七月 十五日	坂田門外の変
一八六七	慶応三年	八月 五日	下関戦争
一八六八	慶応四年	十二月 十日	高杉晋作 功山寺挙兵
		一月 十六日	大田・絵堂の戦い
		九月 二日	第二次長州出兵の勅許
		一月 二日	薩長同盟(坂本龍馬仲介)
		六月 七日	四境の役大島口の戦い始まる
		六月 十三日	高杉晋作
		六月 十六日	丙寅丸による前島沖奇襲成功
		六月 二十日	松山藩軍 津和地島に退却
		六月 二十日	幕府軍 広島方面へ退却
		十月 十四日	坂本龍馬 船中八策起草
		十一月 十五日	徳川慶喜 大政奉還上奏
		十二月 九日	坂本龍馬 暗殺
		一月 三日	王政復古 新政府の樹立を宣言
		三月 十四日	戊辰戦争が始まる
		九月 八日	五箇条の誓文 年号を明治に改元